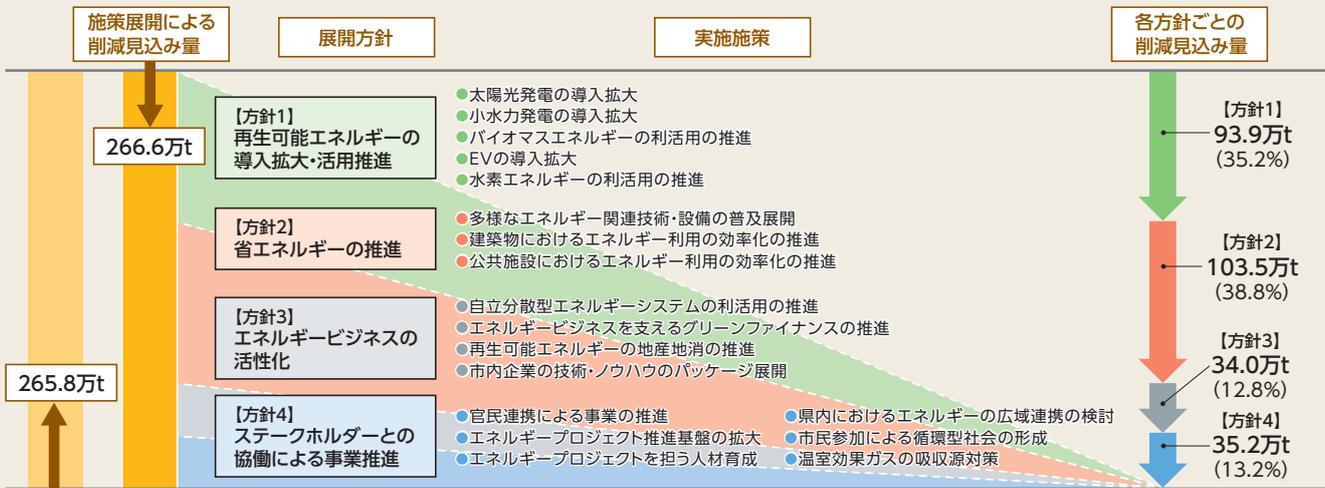


環境へのやさしさに満ちたまち。

富山市地球温暖化対策推進計画

● 施策展開による温室効果ガスの削減効果(2050年イメージ)



2050年の未来へ向けて「ゼロカーボンシティ」の実現へ

近年、国内外でのゼロカーボンの実現に向けた機運が高まる中、本市におきましては、2050年の温室効果ガス排出実質ゼロを目指し、令和3年3月に「ゼロカーボンシティ」を表明するとともに、令和5年3月に「富山市地球温暖化対策推進計画」を策定しました。

本計画では、2050年の目標を達成するために、①再生可能エネルギーの導入拡大・活用推進、②省エネルギーの推進、③エネルギービジネスの活性化、④ステークホルダーとの協働による事業推進、の4つの基本方針を掲げ、脱炭素に資する取り組みを推進していきます。

さらに、地球温暖化防止には市民・団体・事業者・行政がそれぞれの役割を果たし、連携・協力して推進することが重要であり、行動を市民全体に広げる取り組みとして「チームとやまし」事業を推進し、市民総参加の行動として温室効果ガス削減を目指しています。

● 公共施設のZEB化に向けた取り組み

建築物におけるエネルギー利用の効率化を推進するため、富山市エコタウン交流推進センターにおいて、高効率な空調や照明を導入する「ZEB(ゼブ: Net Zero Energy Buildingの略称)」化改修を実施しました。省エネ・断熱等のリフォームの推進とともに市域におけるZEBの導入拡大に取り組めます。



● チームとやまし

<https://www.team-toyama.jp/>



平成20年6月、「とやまがかえる。みらいをかえる。」を合い言葉に、温室効果ガス削減の成果を上げていくことを目的とした「チームとやまし」推進事業の取り組みがスタート。家庭・企業・団体などが自主的にチームを結成し、「チームとやまし」のメンバーとなって具体的な地球温暖化防止行動とその目標を掲げ、環境家計簿の活用やイベント参加など様々な活動を行います。

※令和7年2月1日現在1,863チーム(29,026人)加入



● 水素エネルギーの利活用に向けた取り組み

利用段階において二酸化炭素を排出しないことから、環境負荷の少ない次世代エネルギーの一つとされている水素の普及を推進しています。次世代エネルギーパークに認定されているFCV(燃料電池自動車)用の水素ステーションが市内2か所に設置されているほか、令和5年度には、水素エンジントラックの実証走行が行われました。また、イベントでのFCVの展示やFCVを導入される方への導入費用補助を行うなど、水素エネルギーの普及啓発に向けた様々な取り組みを行っています。

次世代エネルギーパーク

平成24年1月、富山市は再生可能エネルギー設備や体験施設などを整備した都市等を認定する「次世代エネルギーパーク」に北陸で初めて認定されました。小水力や太陽光、バイオマス等の再生可能エネルギー施設をひとつのエネルギーパークとみなし、連携を図りながら小中学生の環境学習や、市民のエコツアーなどの様々な啓発事業に取り組んでいます。

1 エコタウン産業団地



環境にやさしい循環型のまちを目指し、省エネルギー、廃棄物のリサイクルなどによる資源循環型社会を築くため、「富山市エコタウンプラン」を推進しています。エコタウン産業団地内では、生ごみ及び剪定枝のリサイクル施設やハイブリッド型廃プラスチックリサイクル施設など7つの民間事業者が操業しています。（面積：約18ha 平成14年5月事業開始）

2 水素ステーションとやま



令和2年3月に北陸初の商用ステーションとしてオープンしました。富山県内で製造した副生水素を精製し、燃料電池自動車に水素を供給します。

2 水素ステーションとやま



3 とやま南水素ステーション



令和5年4月に商用ステーションとしてリニューアルオープンしました。供給する水素の一部を、再生可能エネルギー（太陽光）で発電した電力を使って製造しています。

4 富山太陽光発電所



約3万m²の敷地に4,815枚の太陽光パネルを設置し、発電出力1,000kWで年間約100万kWh（約250世帯分の年間電気使用量）を発電します。

5 営農サポートセンター



小水力や太陽光、地中熱などを利用した設備を一体的に整備し、再生可能エネルギーを「見える化」して、農業者等に体感してもらいショールームとすることで、再生可能エネルギーの普及展開や農村地域の脱炭素化に繋げていくことを目指しています。

6 木質ペレット製造施設



木質ペレットとは間伐材などを固形燃料化したもので、燃焼時に大気中のCO₂を増加させることがないため、森林資源の有効活用や地球温暖化防止に役立っています。生産された木質ペレットは家庭や公共施設のペレットストーブや温水プールの加温用ボイラーなどに利用されています。

7 小水力発電所



常願寺川を水源とする常西合口用水において、2か所の小水力発電を整備しました。2か所合わせた最大出力は、97.9kWで年間71.73万kWh、約200世帯分の年間電気使用量を発電します。



コンパクトなまちづくり

富山市では、人口減少や超高齢社会の到来など都市を取り巻く課題に対応し、将来世代に責任が持てる、快適で持続可能な都市を実現するため、公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりを推進しています。

そのリーディングプロジェクトとして平成18年4月には富山ライトレールが開業し、平成21年12月には市内電車環状線の開業、平成27年3月には市内電車の富山駅乗入れを開始しました。

さらに、令和2年3月には、本市が進めるコンパクトなまちづくりの一つの到達点である路面電車南北接続事業が完成し、これまで鉄道で分断されていた富山駅南北の市街地の一体化が図られるとともに、富山駅を中心とした全長約15kmのLRTネットワークが形成されました。

路面電車南北接続事業

路面電車南北接続事業は、富山駅南側の市内電車と北側の富山港線を富山駅の高架下に新設する停留場で接続するものです。第1期事業として、平成27年3月の北陸新幹線の開業に合わせて、富山駅南側を運行する市内電車の新幹線高架下への乗り入れを開始しました。第2期事業は、富山駅北側の富山港線を平成31年3月に完成した在来線の高架下まで延伸するもので、令和2年3月に富山駅南北の路面電車がつながりました。これにより、新幹線や在来線から路面電車へのスムーズな乗り換えが可能となり、富山駅における交通結節機能が大幅に強化されるとともに、本市の北部地域から中心市街地へ乗り換えなしで直接アクセスすることが可能になるなど、路面電車の利便性が飛躍的に向上しました。



富山市の目指すコンパクトなまちづくり

富山市が目指すお団子と串の都市構造

都心部だけではない全市的に行うコンパクトなまちづくり

「串」

一定以上のサービス水準の公共交通

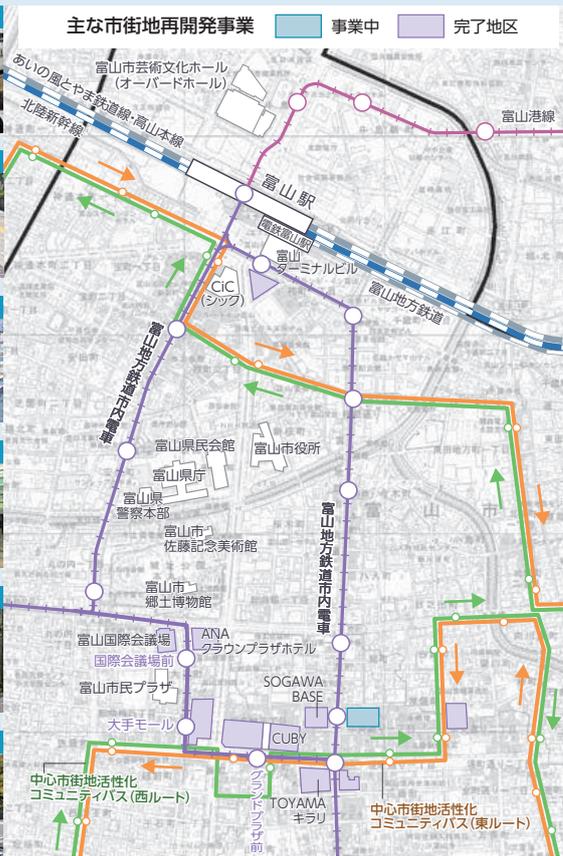
「お団子」

串で結ばれた徒歩圏



公共交通の活性化による まちなかの賑わい向上

北陸新幹線整備と在来線の高架化に合わせた路面電車南北接続や駅前広場整備により、富山駅に結節する鉄道や路線バスなど公共交通の乗り継ぎが便利になり、富山駅の交通結節機能が大幅に向上しました。また、市内電車の環状線化や南北接続事業をはじめとする公共交通の活性化や、グランドプラザやTOYAMAキラリなどの整備を進めてきたことが呼び水となり、富山駅周辺や平和通り周辺地区においては、民間投資による再開発事業が相次いで行われています。こうしたことにより、居住誘導区域内である中心市街地と公共交通沿線居住推進地区が人口増となるなど、公共交通の活性化が人口増や賑わいの創出に大きな効果をもたらしています。



自動運転実証実験事業

郊外や中山間地域における生活の足となる交通手段の確保や、バス運転手不足の解消などに向けて、最先端技術を活用した持続可能な公共交通サービスを提供するため、婦中地域朝日地区において、レベル2の技術を活用した自動運転車両の実証実験を行っています。実証データや利用者・地域住民へのアンケート調査などによる効果検証を踏まえ、自動運転サービスの今後の展開を検討します。

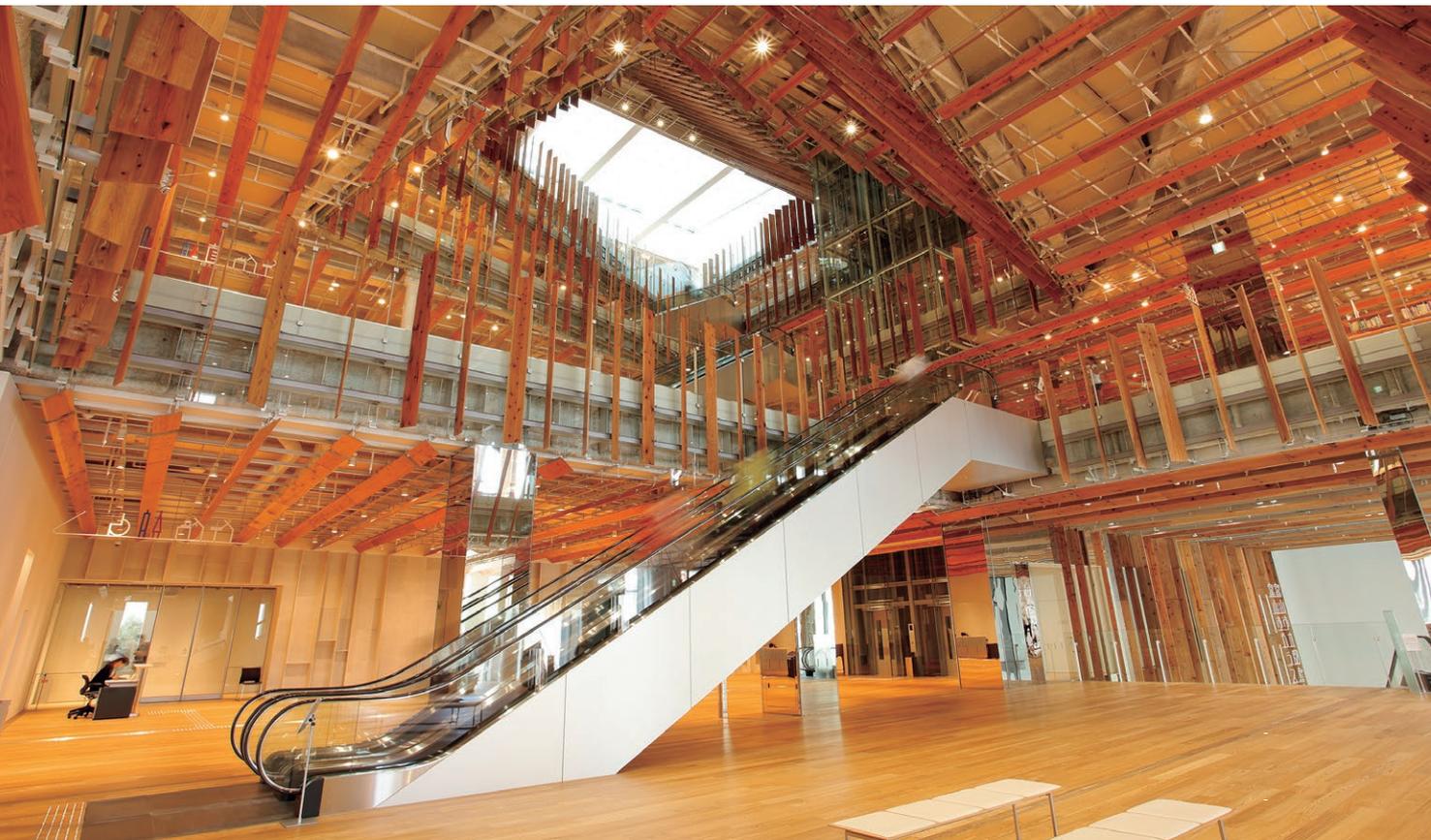


グリーンスローモビリティ運行事業

ラストワンマイルとして市民の交通手段の確保や観光地を回遊する新たな移動手段として、環境にやさしく低速で安全なグリーンスローモビリティを導入しています。富山駅北地区では、賑わい創出や回遊性の向上のため、バスタイプが民間主体で令和5年8月から本格運行を開始しています。郊外部等では、交通手段を確保するため、駆動力があり小回りの効く、ランドカータイプによる社会実験を岩瀬地区で実施します。



「文化」と「産業」が響き合う「ガラスの街とやま」。



ガラスをテーマとした街づくり

昭和60年度から「ガラスの街とやま」を目指して、ガラス文化を担う人材の育成やガラス作家の定住・定着支援、「富山ガラス」のブランド化など、様々な事業を展開しています。

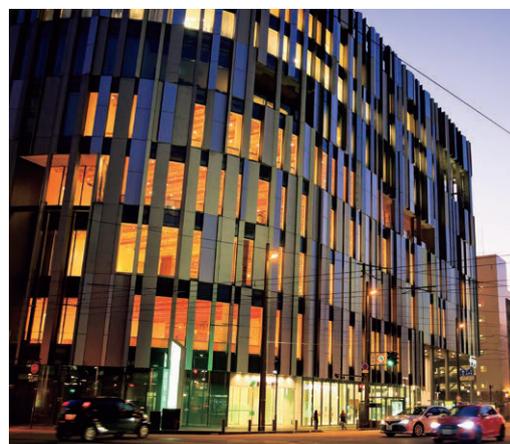
また、平成24年9月には、ガラス関連施設が集積する「グラス・アート・ヒルズ富山」において、体験機能やイベント機能を充実させた「富山ガラス工房第2工房」がオープンし、平成27年8月には、「富山市ガラス美術館」が開館しました。

これらの事業により、多くの市民がガラスに親しむことが出来るとともに、ガラス造形研究所の卒業生やガラス工房の作家等の国内外での活躍などもあって、富山のガラスは全国的にも知名度を高めています。

富山市ガラス美術館

<https://toyama-glass-art-museum.jp>

「ガラスの街とやま」の中核施設となる本美術館は、市が所蔵する現代ガラス作品の展示や、ガラス芸術を中心とした展覧会の開催を通じて、多くの人々にガラス美術の魅力や楽しさを体感していただけます。世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した温もりある開放的な空間となっています。



グラス・アート・ガーデン

ガラス美術館6階「グラス・アート・ガーデン」には、現代ガラス美術の巨匠デイル・チフリー氏によるインスタレーション（空間芸術）作品を展示しています。チフリー氏の代表的なシリーズである「パルシャン」や「フィオリ」など5つのインスタレーション作品と、パネル作品を観覧できます。

Dale Chihuly, *Toyama Mille Fiori*, 2015,
H280×W940×D580cm,
Toyama Glass Art Museum,
©Chihuly Studio. All rights reserved.



富山ガラス工房 第2工房

「ガラスの街とやま」を身近に感じてもらうため、「富山ガラス工房 第2工房」では、吹きガラスや季節ごとの特別コースなど、様々な制作体験を楽しむことができます。イベントも充実させており、約70席設けた観覧席から、プロのガラス作家の実演を間近で見ることができます。



富山ガラス工房は、ガラス工芸の技術者養成と創作活動を通じてガラス工芸品を富山の新しい産業として定着させることを目的に平成6年に設置されました。富山独自のガラス素材の研究や建物の様々な空間での活用などを通して、ブランド化を推進しています。



ガラス工芸品

富山ガラス工房のオリジナル色として開発した「富山曼茶羅彩」



ガラス工芸品

ブランド化事業の一環として開発した〈富山アイコニック®〉

2019年、富山で活躍するガラス作家の有志が集まり、日本発のラグジュアリーブランドとして開発されました。

● 富山ガラス造形研究所

平成3年に全国初の公立のガラス専門教育機関として設立された富山ガラス造形研究所では、富山のガラス文化を担う優れたガラス作家の育成に取り組んでいます。充実した設備と一流の講師陣は世界的にも高い評価を受けており、高い専門技術を身に付けた卒業生たちが、ガラス業界の様々な方面で活躍しています。



アーティスト・イン・レジデンス事業

国内外で活動するガラス作家を公募し、その中から選ばれた作家が富山に滞在、作家と「ガラスの街とやま」の双方の魅力を発信しています。

活気にあふれ、多様な暮らし方を実現させるまち。



地域特性を活かした 都市機能の集約

中心市街地への公共交通の利便性を高めることで、就業、買い物、文化、レクリエーションの場、居住の場を複合的・集約的に立地することにより、活力と魅力ある「都市の顔」を形成していきます。

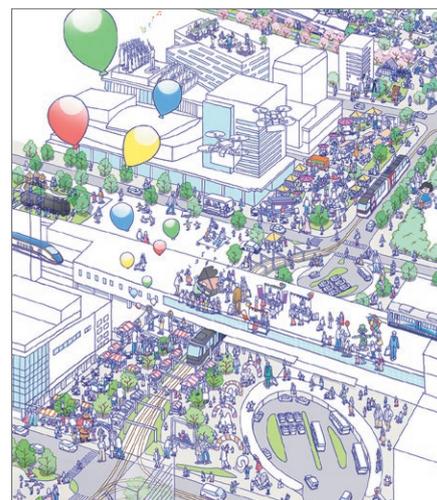
また、豊かな自然や地域の個性・特性を活かすとともに、地域の核となる地域生活拠点での日常生活に必要な機能やサービスの維持・集約と公共交通の充実により、市民が安心して暮らせるまちづくりを進めます。

富山トランジットモール(大手モール)

路面電車と歩行者のみの空間を作り、賑わいを創出する取り組みです。大手モール周辺には雑貨や飲食のお店が出店され、多くの人が訪れます。

官民共創によるまちづくり

南北自由通路の開通や路面電車の南北接続により、富山駅周辺エリアの人の流れは劇的に変化しました。令和5年3月には民間事業者や市民が中心となり、未来ビジョン「トヤマチ∞ミライ」が策定されました。本日も、民間事業者や市民と互いに情報を共有し連携することで、富山駅周辺エリアが居心地よく愛される空間となるよう取り組んでいます。



まちなか居住推進事業

まちなかの定住人口を増やすため、市民が良質な住宅の建設や購入をした場合の購入補助や、賃貸アパート等に住む場合の家賃補助を行っています。さらに、共同住宅等を建設した事業者にも補助を行っています。



おでかけ定期券

市内在住の65歳以上の方が市内各地から中心市街地へ出かける際に、地鉄路線バス、地鉄電車、市内電車などを100円で利用できる定期券です。また、おでかけ定期券を提示すると、中心市街地の協賛店で商品割引が受けられるなどの優待サービスもあります。



歩きたくなるまちづくりの推進 ('とほ活'の取り組み)

富山で歩く生活=「とほ活」の取り組みを進めています。スマートフォンアプリ「とほ活」は、歩数や公共交通の利用、市内イベントの参加、体重等の入力によってポイントがたまり、ポイントに応じて素敵な賞品が当たる抽選に応募することができます。



快適に暮らせるコミュニティが生まれるまち。

健康で健全に暮らすまちづくり

子どもからお年寄りまで、市民が豊かで快適、安全に暮らすため、医療・福祉の充実や特色のある様々な施策に取り組んでいます。

パワーリハビリテーションをはじめ高齢者の生活機能の維持や健康寿命を延ばす取り組みにも力を入れています。



シニアライフ講座

地域の公民館などで、生け花や陶芸、スマホ教室など様々な講座を開設しています。高齢者が楽しく、いきいきと過ごす通いの場となっています。

介護予防の拠点 「角川介護予防センター」愛称『ほっとねす角川』

全国初の温泉水を活用した介護予防を専門に行う施設です。医師や専門スタッフが運動プログラムを作成し、多機能プールでの水中運動やパワーリハビリテーションなどを提供することで、虚弱高齢者等の介護予防及び健康増進に努めています。



スマートウエルネス推進事業 (ICTを活用した健康づくり)

野菜摂取量を測定する装置や超音波で骨密度を測定する装置などのデジタル機器を使い、個人の健康データを「見える化」し、生活習慣の改善に向けた行動変容を促す「はかる・みえる・きづく・かわる」取り組みを実施しています。



市民の健康を守る医療体制

それぞれの病院・診療所が役割を分担し、互いに連携することで、地域医療を支えています。



▲富山市民病院

高度急性期・急性期医療を担う地域の中核病院として、地域のかかりつけ医などから紹介された患者や救急搬送された患者を受け入れるとともに、災害医療にも取り組んでいます。



▲富山まちなか病院

地域のかかりつけ医療である外来と、回復期の患者を受け入れリハビリテーションなどの在宅復帰支援を行う地域包括ケア病床を提供しています。



▲まちなか診療所

訪問診療を専門に行う診療所で、医療や介護が必要になっても、住み慣れたまちで暮らせるよう、患者や家族、医療福祉関係者を24時間365日サポートしています。在宅医療の人材育成にも力を入れています。

子どもたちがいきいきと学び感動を育むまち。



ICT活用推進事業

国が示した「GIGAスクール構想」の実現に向けて、令和2年度に一人1台端末の配備と校内無線LAN環境の整備を完了しました。ICT機器等の活用により、子ども一人一人の興味・関心やペースに合わせた「個別最適な学び」が実現されるよう授業改善に取り組んでいます。ICT教育やプログラミング教育の推進により、子どもたちの情報活用能力の育成を図ります。

学び、感動して 成長する環境づくり

小・中学校の改築や耐震補強、エアコン設置、全トイレの洋式化を進めるなど、子どもたちがいきいきと学び健やかに育つ教育環境の充実を図っています。

また、学校や地域の特色を活かした、多様で個性的な教育を展開するため、学校の裁量を拡大し、学校が自主的・活動的な創造性にあふれる学校経営を行うことができるように支援しています。

さらに、子どもたちが自然科学に触れる機会を増やし、感動しながら育つよう、様々な事業に取り組んでいます。

PFI手法による学校整備事業

設計・建設・維持管理について民間の資本やノウハウを取り入れたPFI手法による学校整備事業を実施し、平成20年度には統合校として小学校1校、小中学校一体型校舎1棟を、平成22年度には、分離校として1校が開校しました。令和4年度には、新たに統合校として八尾中学校が開校しました。このほか、令和8年度に水橋地区の小中学校を統合した富山市初の義務教育学校「水橋学園」を開校するため、現在、整備を進めています。



統合校として新たに開校した八尾中学校



令和8年4月の開校を目指し整備を進めている水橋学園（イメージ図）



元気な学校創造事業

学校が自主的・活動的で、元気と創造性にあふれる学校運営を行うため、学校の裁量を拡大した事業実施形態を取り入れています。

地域の方々から地元特産野菜の栽培や伝統産業を学んだり、小規模校同士で交流し多様な価値観に触れたり、児童生徒が意欲にあふれた学校生活を送れるよう、各学校で創意工夫して特色ある教育活動に取り組んでいます。



立山登山

子どもたちが北アルプスの雄大な自然に触れる機会を創出するため、学校、PTA及び社会教育団体等が立山登山または立山周辺の散策活動を行う際の費用を助成しています。



富山市立図書館

<https://www.library.toyama.toyama.jp/>

「みんなに本を 地域に図書館を」を基本理念として、25の図書館を市内全域で運営しています。

中でも中心市街地に立地する本館(TOYAMAキラリ内(P6-2参照))は、読書や情報の拠点であるにとどまらず、各種イベントを開催し、まちなかの「にぎわい交流拠点」として市民に親しまれています。

また、本館には閲覧室やWi-Fi環境が整備され、観光やまちづくり、路面電車関係の資料も充実しています。



富山市科学博物館

<https://www.tsm.toyama.toyama.jp/>

県内で発見された恐竜足跡化石やクジラの骨格標本、ダイヤモンドダスト発生装置などの多彩な展示を通して、変化に富む富山の自然や地形の成り立ち、人と自然との関わりを、楽しみながら学べる博物館です。

プラネタリウムでは、美しい星空と迫力ある宇宙映像が楽しめます。



孫とおでかけ支援事業

高齢者の外出の機会を促進するとともに、世代間交流を通じて家族の絆を深めるために、祖父母と孫(ひ孫)と一緒に科学博物館やファミリーパークといった対象施設に来館された場合に観覧料等を全額減免し、地域の文化や歴史、科学への関心を幅広い年齢層に広めることなどを目的として実施しています。



とやまこどもプラザ

「とやまこどもプラザ」は、こども図書館と子育て支援センターが一体となった施設です。親子で本を楽しんだり、子育てに関する相談や保護者同士の交流・情報交換などができる場となっています。



富山市ファミリーパーク

<https://www.toyama-familypark.jp/>

呉羽丘陵の豊かな自然の中に位置する動物園です。令和6年で開園40周年を迎えました。世界の希少な動物や、郷土の動物を中心に95種699点(令和7年1月31日現在)の動物を飼育・展示しています。ニホンライチョウの保護増殖事業のほか、令和4年には熱帯鳥類館「バードピア」がオープンし、ヨウム繁殖プロジェクトにも取り組んでいます。

また、小動物とのふれあいや乗馬体験、自然体験などの環境教育を通じて「命の大切さ」を伝えていきます。



多様性ある産業構造を活かし 安心して働くことができるまち。



製薬工場

市内には約50社もの製薬企業が集積しており、製薬業は、全国でもトップクラスの医薬品生産額を誇ります。

富山イノベーションパーク



市内に30か所ある企業団地には、医薬品製造をはじめ工業用ロボット製造、IT関連企業などが操業しています。

将来を見据えた 様々な取り組み

富山市の製造業は、医薬品、産業機械、精密電子部品、精密機械部品などを製造する多種多様な企業で構成されています。

大きく変化している社会経済情勢のなか、将来にわたって富山市への投資を呼び込み、地域経済の活性化と安定した雇用の確保のため、企業団地の整備や融資制度の充実など様々な施策に取り組んでいます。

また、農業や水産業分野においても、将来を見据えた特色ある施策を行っています。

産業用ロボット

産業用ロボット、半導体、精密部品などのメーカーが富山市の製造業を支えています。



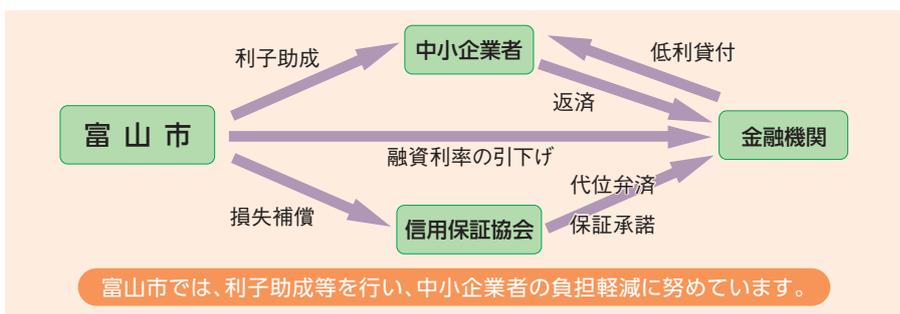
未来共創拠点施設「Sketch Lab(スケッチラボ)」

立場や世代の異なる産学官民が対話を重ね、未来のビジョンを共有し、新たなビジネスの創出や暮らしの課題の解決にチャレンジする「未来共創」を目的とした、会員制の交流・共創スペースです。産学官連携組織によって運営され、交流イベントやビジネスコンテスト、シビックテックなどの多彩なプログラムが開催されています。市のスマートシティ政策における企業の共創の場としても活用されています。



中小企業向け融資制度

富山市では、中小企業者の事業資金調達のための円滑化を図るため、「運転資金」や「設備投資支援資金」、「創業者支援資金」など多様な用途に応じた融資制度を設けています。利子助成や損失補償を行うなど低利で利用しやすい仕組みづくりに努めており、多くの中小企業者に利用されています。



富山市では、利子助成等を行い、中小企業者の負担軽減に努めています。



▲ 国営農地再編整備事業 (次世代農業促進型)「水橋地区」

水橋地区で、国による農地の大区画化等の農地整備が実施され、担い手農業者へ農地の集積・集約化がすすめられています。また、自動走行機械やICT技術を活用した「スマート農業」による農作業の省力化・効率化や、高収益作物の作付拡大により生産性・収益性の向上を図る「次世代型農業」を関係機関とともに推進しています。

● 良質な森林の保全と活用

水源かん養や国土保全、CO₂の吸収など公益的機能を持つ森林の再生を市民共有の課題と位置づけ、市民との協働による里山整備や企業との協働による森づくりに取り組んでいます。



● とやま楽農学園

富山市では、農業の多様な担い手として、非農家の方にも農業に携わってもらうため、「とやま楽農学園」を開講し、農家を支援する農業サポーターの育成に努めています。



● 地場もん屋

<https://www.siminplaza.co.jp/jibamonya/>

地産地消の推進拠点として中心市街地で営業しています。市内産の野菜や果物など、新鮮とれたて、四季折々の地場食材が豊富に揃っています。



▲ 有機農業取組拡大推進事業

令和6年3月に「富山市オーガニックビレッジ宣言」を行い、市内で環境に優しい有機農業を推進しています。有機農業用機械の導入支援や、市立小・中学校を対象とした学校給食での有機米提供などを行いながら、自然と調和した農業を目指しています。

● とやま花Tram・花Busキャンペーン

花で潤う街の創出を図るため、指定の生花店で花を購入し、花を持って市内路面電車や一部のバスを利用する場合に乗車運賃を無料とする「とやま花Tram・花Busキャンペーン」に取り組み、華やかで明るい空間を演出しています。



● 富山市公設地方卸売市場

富山湾は、天然のいけすと呼ばれ四季を通じて豊富な種類の魚介類が水揚げされます。富山市公設地方卸売市場では、富山県内をはじめ、全国から集荷した新鮮な魚介、青果、花きの取引が行われています。



● 農林水産物プロモーション推進事業

富山市産農林水産物の市民に向けてのPRや、国内外の多様な販路開拓を目指したプロモーション活動を推進し、農業所得の向上や市内産農林水産物の知名度向上、イメージアップを図っています。



新しい富山を創る協働のまち。



ふるさと富山美化大作戦

例年8月に市内全域で、まちの環境美化を推進するため地域住民やボランティア団体、企業の方々の協力を得ながら清掃活動を行っています。市民が一齐に清掃に汗を流すことで、市民の一体感の醸成にもつながっています。

森林ボランティアとの連携



多様な森林ボランティア組織と行政が連携を図り、豊かな森づくりに取り組める仕組みづくりを行っています。

みんなの力をあわせて 未来のまちづくり

さまざまな活動を通して、「わがまち富山」に対するシビックプライドを醸成し、市民と行政の協働によるまちづくりをすすめています。

タウンミーティング



市民に市の施策等を説明し、意見を交換するためのタウンミーティングや、市長が市民の会合や集まりに出向き、市政に関する説明を直接行う市長の出前トーク。市政に関する相互理解を深めています。

市役所出前講座



市職員が市民の会合に出向き、行政情報などを説明。介護や子育てなど、175講座(令和7年1月現在)を用意しています。

国際交流の推進

国際社会への市民の理解を深め、市民による様々な国際交流活動を推進しています。また、次の4か国の都市と姉妹・友好都市を結んでいます。



友好都市
秦皇島市 中華人民共和国・河北省

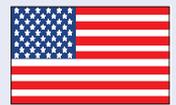
友好都市締結調印の日
1981年(昭和56年)5月7日
人口 約3,107,000人 主な産業 ガラス産業
面積 7,813km² 機械製造業
ビニール産業



秦皇島市の観光地「老龍頭(澄海楼)」



ダーラム市の「デューク大学」



姉妹都市
ダーラム市 アメリカ合衆国・ノースカロライナ州

姉妹都市提携調印の日
1989年(平成元年)6月13日
人口 約284,000人 主な産業 保健・医療関連産業
面積 286km² ハイテク産業



姉妹都市
ダボリージョナル・カウンシル オーストラリア連邦
ニューサウスウェールズ州

姉妹都市提携調印の日
1992年(平成4年)8月24日
人口 約57,000人 主な産業 農畜産業
面積 7,536km²



ダボリージョナル・カウンシルの「キャメロン公園」



モジダス・クルーゼス市の「オ・マルコ広場」



姉妹都市
モジダス・クルーゼス市 ブラジル連邦共和国
サンパウロ州

姉妹都市提携調印の日
1979年(昭和54年)11月8日
人口 約452,000人 主な産業 機械金属製造業
面積 713km²

市民の安全を守り危機にそなえるまち。



防災対策

大規模な災害を想定した総合的な防災訓練を毎年各地域で実施しています。訓練には消防職員のほか、普段は様々な仕事に就いている消防団員も多数参加しています。



新しい富山消防署南部出張所に、停電時でも必要な電力を供給できる自家発電設備を設置しました。また、富山方面団熊野分団器具置場は延べ面積を増床し、2階に研修室兼待機室を設けるなど機能を強化しています。

地域と行政の連携で市民の生活を守る

地震や台風による水害などの自然災害をはじめ、あらゆる危機に対応する体制の整備をすすめ、市民が安全に暮らせるまちづくりを進めています。

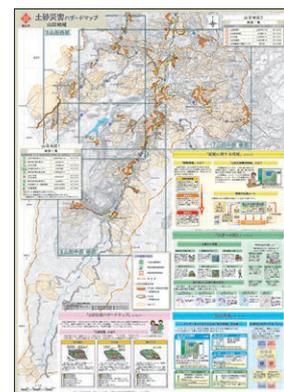
有害鳥獣対策

クマによる人身被害の防止を図るため、警察や鳥獣被害対策実施隊と連携し、クマ出没時の警戒態勢を整えとともに、市民への迅速な周知に努めています。また、地域住民が行う放任果樹の伐採等のクマ対策活動を支援しています。



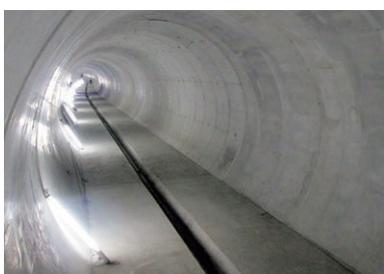
ハザードマップ

国が示す「土砂災害ハザードマップ作成ガイドライン」が改訂されたこと等を受け、「富山市土砂災害ハザードマップ」を令和4年度に更新しました。このほか、「富山市地震防災マップ」、「富山市津波ハザードマップ」、「富山市洪水ハザードマップ」、「富山市内水ハザードマップ」があります。



「松川雨水貯留施設」の整備

大雨の時に一時的に雨水を貯め、中心市街地の浸水被害の軽減などを図るため、基幹施設となる松川貯留管(延長約1.1km、直径約5m)や雨水幹線などの整備を行いました。



除雪作業

市民生活や経済活動を維持するために欠かすことができない除雪作業。冬期間の安全な道路交通の確保に努めています。

